

平成 27 年度 第 1 回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

日 時 平成 27 年 5 月 1 日 (金) 14:00～17:05
 場 所 琉球大学医学部 管理棟 3 階 大会議室
 構 成 員 34 名 出席者 30 名 欠席者 4 名

1 号委員 (琉大病院長)	藤田 次郎
2 号委員 (県立中部病院長)	上原 元
(那覇市立病院長)	照喜名 重一
3 号委員 (北部地区医師会病院長)	諸喜田 林
(県立宮古病院長)	上原 哲夫
(県立八重山病院長)	依光 たみ枝
4 号委員 (沖縄県医師会長)	宮城 信雄 (欠席)
5 号委員 (沖縄県歯科医師会長)	比嘉 良喬
6 号委員 (沖縄県薬剤師会長)	神村 武之
7 号委員 (沖縄県看護協会会長)	奥平 登美子 (代理) 平 順寧
9 号委員 (沖縄県保健医療部長)	仲本 朝久
10 号委員 (がんセンター長)	増田 昌人
11 号委員 (医療福祉支援センター長)	藤田 次郎
12 号委員 (琉大薬剤部長事務取扱 (併))	藤田 次郎 (代理) 外間 惟夫
13 号委員 (琉大看護部長)	下地 孝子
14 号委員 (琉大事務部長)	深澤 博昭
15 号委員 (県立中部病院副病院長)	本竹 秀光 (欠席)
(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇
(那覇市立病院外科部長)	友利 寛文
(那覇市立病院外科部長)	宮里 浩
16 号委員 (北部地区医師会病院看護部長)	柴山 順子
(県立宮古病院外科部長)	松村 敏信
(県立八重山病院副看護部長)	上盛 厚子
17 号委員 (沖縄県がん患者会連合会)	田仲 康榮
(がんの子供を守る会沖縄支部代表)	片倉 政人
(公益社団法人日本オナミ協会沖縄支部長)	大城 松健
(ゆうかぎの会(離島におけるがん患者支援を考える会)会長)	真栄里 隆代
18 号委員 (東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット特任教授)	埴岡 健一
(沖縄タイムス社会部北部報道部長)	儀間 多美子
(特定非営利活動法人グループ・ネカス理事長)	天野 慎介
19 号委員 (琉大病院歯科口腔外科長)	新崎 章
(琉大病院病理部長)	吉見 直己 (欠席)
(琉大病院第一外科長)	西巻 正 (代理) 國仲 弘一
(琉大病院骨髄移植センター長)	百名 伸之 (欠席)
部会説明者 緩和ケア部会長	笹良 剛史
がん登録部会長	安里 邦子 (代理) 仲本 奈々
研修部会長	喜舎場 朝雄 (代理) 増田 昌人
相談支援部会長	樋口 美智子
地域ネットワーク部会長	佐村 博範 (代理) 増田 昌人
普及啓発部会長	長井 裕 (代理) 増田 昌人
がん政策部会長	埴岡 健一
陪席者 沖縄県保健医療部健康長寿課課長	糸数 公
沖縄県保健医療部保健医療政策課主査	高江洲 要

- ・議事に先立ち新議長（新琉大病院長）から就任の挨拶があった。
 - ・増田委員（10号委員）から資料の確認があった。
- また、今回、当協議会視察のため陪席する北海道がんセンターの近藤センター長の紹介があった。

議 事

1. 平成27年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(4月20日開催)

増田委員（10号委員）から、資料1の第1回幹事会議事要旨（平成27年4月20日開催）の確認があった。

2. 平成26年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

増田委員（10号委員）から、資料2の平成26年度第4回協議会議事要旨（平成27年2月13日開催）の確認があった。

3. 平成26年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事録

増田委員（10号委員）から、平成26年度第4回議事録については協議会ホームページ（運営サイト）に掲載する旨の説明があった。

※議事1～3については、委員各自で確認し、修正意見等がある場合は後日事務局へ申し出ていただき、反映した上で確定することとした。

4. 協議会・幹事会・部会委員一覧

増田委員（10号委員）から、資料3に基づき以下のとおり委員の変更について報告があった。

（協議会委員）

- ・1号委員 琉大病院病院長 藤田 次郎
- ・2号委員 沖縄県立中部病院病院長 上原 元
- ・3号委員 沖縄県立宮古病院 上原 哲夫
- ・8号委員 沖縄県政策参与 新垣 義孝（委嘱依頼予定）
- ・11号委員 琉大病院医療福祉支援センター長 藤田 次郎
- ・12号委員 琉大病院 薬剤部長事務取扱（併） 藤田 次郎
- ・15号委員 沖縄県立中部病院 本竹 秀光
- ・15号委員 沖縄県立中部病院 朝倉 義崇

（幹事会）

- ・2号委員 沖縄県立中部病院 朝倉 義崇
- ・4号委員 琉球大学医学部総務課 金城 邦光

（緩和ケア部会）

- ・北部医師会病院 比嘉 宇郎
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 川田 聡

（相談支援部会）

- ・ハートライフ病院地域医療連携室 西田 悠希子
- ・琉球大学医学部附属病院医療福祉支援センター 松岡 栄二
- ・沖縄県立中部病院 島袋 幸代
- ・社団法人友愛会 豊見城中央病院 上原 弘美

（地域ネットワーク部会）

- ・沖縄県立中部病院 島袋 幸代

- (普及啓発部会)
・ 沖縄県教育庁保健体育課 狩俣 好則

有識者報告

1. 天野委員報告

天野委員（18号委員）から資料29に基づき、世界禁煙デーに付随して開催する「がんサミット（6月1日開催）」について説明があった。

2. 埴岡委員報告

埴岡委員（18号委員）から資料30に基づき「がん政策サミット2015 春（5月31日・6月1日開催）」についての説明及び各委員への参加要請があった。そして、2007年からがん対策基本法が始まり、現在第2次計画の中間評価にさしかかる節目の年ということで、かつての熱気はあるか、結果が伴っているかという点においての問題意識が求められており、今年度の中間評価への取り組みが重要となる旨の発言があった。

審議事項

1. 沖縄県がん対策推進計画（第2次）の中間評価の現地調査について

沖縄県保健医療部医療政策課の高江洲主査から、資料5に基づき、①中間評価の結果が次期計画に反映され、かつ公開される。②中間評価については琉大病院に業務委託する旨の説明があった。

次いで、琉大病院がんセンターの井岡医師から、資料16にある「第2期がん対策推進基本計画進捗管理指標一覧」に基づき、今後の作業の流れとしては「指標で必要となる調査の実施」「その後の評価のとりまとめ」となる旨の説明があり、次期計画への基礎資料及び提言に繋がるような取り組みとしたい旨の発言があった。

また、以下のとおり質疑等があった。

- ・ 議長から中間評価に当たっての重要事項について質問があり、埴岡委員（18号委員）からは「アウトカムへの着眼点」、「患者からみた効果についての評価」が重要事項となり得ることや今後は「生存」だけでなく緩和ケアなど「生活の質」が重要視されるので、緩和ケア分野における目標設定が大事となるのではないかとの発言があった。
- ・ 仲本委員（9号委員）から年間スケジュールについて質問があり、増田委員（10号委員）からは、がん政策部会のワーキンググループにて、県の計画を軸として、国の計画を参考に全体計画をロジックモデルに落としこんで目処を立てたこと、分野別のアウトカムや中間アウトカムの指標はある程度はたたき台として出来上がっている旨の現状報告があった。今後のスケジュールとしては6月を目処に個別政策とそれに対する指標が出来上がり、各部会で検討いただくこと。8月の第2回協議会で原案を示す予定であること。そして10月を目処に測定が開始されるあるいは質問表を作成し各種意見を踏まえていく方向性である旨の説明があった。
- ・ 真栄里委員（17号委員）からは、患者からの意見等を評価に反映させていただきたい旨の意見があり、増田委員（10号委員）からは各部会や患者会などから得た意見や情報なども活用させていただき計画である旨の説明があった。

2. 平成27年度の協議会・幹事会の開催について

増田委員（10号委員）から、資料6に基づき説明があり、第3回協議会については11月が学会シーズンであることから11月13日ないし11月20日とし、後日事務局から各委員の都合を確認した上で決定することとした。また、第2回幹事会については7月6日から後ろ倒しとし7月27日で予定する旨の説明があった。

また、田仲委員（17号委員）から、常に資料と審議の内容が広範囲であり4回では荷が重

いので1・2回増やして分散すべきではないかとの意見があり、増田委員（10号委員）から、協議会発足当時に全国の拠点病院を調査して、静岡県をモデルとして4回とした旨の経緯説明があった。また、9月のがん制圧月間を踏まえて次回協議会（8月7日）までに中間評価・指標を示して欲しいことの要望については、最終報告が年明けになる見込みであることから、途中経過は随時報告することとし、9月のがん制圧月間においては何らかの形で示すことができるよう努力していきたい旨の発言があった。また、天野委員（18号委員）から、がん対策推進計画等の改訂については県のがん対策協議会が担う部分もあり兼ね合いを考えるべきであるとの意見、埴岡委員（18号委員）からは、各都道府県協議会の開催件数として年4回は頻度として全国的にも多めであり、協議会回数の変更ではなく、今後は部会や事前ミーティングの持ち方などを工夫して効率的な運営を目指すべきとの意見があった。

報告事項

1. 前年度と今年度の沖縄県のがん関連予算について

沖縄県保健医療部保健医療政策課の高江洲主査から、資料7に基づき予算項目ごとの増減について説明があった。

次いで、以下のとおり種々意見等が出された。

- ・真栄里委員（17号委員）

看護関連補助金（認定看護師になるための学費や補充要員雇用のための費用）ができると聞いており期待している。このような情報は医師会をとおしてクリニック等でも活用できるように周知して欲しい。

- ・下地委員（13号委員）

以前、この協議会から県に要望書を出しており、認定看護師に係る研修の旅費等は施設が立て替えた額の半額を補填するなど実績はあるが、他府県での宿泊費や旅費が一番負担があるのでサポートについて引き続き要望したい。民間クリニック等への周知については、今年3月に説明会があり情報はすでに伝達されているものと考えている。

- ・仲本委員（9号委員）

沖縄県のがん対策において、ハンドブックや肝炎治療以外に看護についてももしっかり努力していきたい。

- ・天野委員（18号委員）

県立宮古病院の地域がん診療病院指定に伴い予算が増えたが、増えた分の使途をご教示いただきたい。

- ・上原委員（3号委員）

スタッフの養成等を検討していこうと考える。

- ・天野委員（18号委員）

宮古病院については緩和ケアと患者相談にも力を注いでいただきたいと考える。

- ・奥平委員（第7号委員）代理 平 順寧

3月に看護協会で予算の説明を行った。感染症の認定看護師養成に取り組んできたが、協会としては補助金を用いてWOC認定看護師養成に力を入れようと考えている。がん認定看護師についても今後検討していきたい。

- ・下地委員（13号委員）

今年度はWOC認定看護師養成20名枠に対し40名の応募があった。WOCはがん診療の関連としても重要なことであると認識している。

- ・真栄里委員（17号委員）

宮古病院ではがん情報コーナーができている。このように患者の目に触れることができるように情報提供等に予算を使っていただきたい。

- ・大城委員（17号委員）

WOC認定看護師は県内に12名しかいない。また人工肛門・永久ストーマは患者により特性が異なりケアが大変な分野である。WOC認定看護師は必要な存在であり、今夏から認定が取れることをうれしく思う。しっかり補助していただき1機関1名以上の配置が実現でき

ればと考える。

- ・田仲委員（17号委員）
がん患者等への旅費等補助が「支援対策」のどこに入っているのか。また、今回宮古病院が地域がん診療病院に指定され国からの財源により予算が増額したが、八重山・北部地区医師会両病院はどうなるのか。
- ・沖縄県保健医療部高江洲主査
離島患者家族宿泊支援は実際の補助・交付ではなく、ホテル協会からの割引（協力）という形で取り組んでいる。また、八重山病院と北部地区医師会病院の地域がん診療病院の指定については、厚労省が定める基準を満たしてなかったとしか言えない状況であり要因を分析していきたい。
- ・仲本委員（9号委員）
県としても八重山病院と北部地区医師会病院の認定を共に目指していきたい。予算についても県としてはこのまま継続し、国の補助がそのままプラスとなるように考えている。
- ・真栄里委員（17号委員）
病院の付近に南部医療センターの「がじゅまるの家」のようなゲストハウスが必要と感じる。ウィークリーマンションでは月11～14万円となる。非常に厳しい現実である。ホテル割引以上の取り組みをしていただきたい。
- ・沖縄県保健医療部高江洲主査
ニーズを把握して取り組んでいきたい。
- ・田仲委員（17号委員）
八重山病院と北部地区医師会病院の地域がん診療病院指定についてしっかり対策しクリアしていただきたい。
- ・埴岡委員（18号委員）
県の他の部門も「がん対策」等に関連する予算を計上すべきと考える。消費税を財源としている基金について今後の見込みも伺いたい。
- ・仲本委員（9号委員）
地域医療再生基金は17億円規模であり今年度で終了となるが、これからも同規模を目指し事業提案していくつもりである。来年度に向けて予算確保に力を入れる。

2. 院内がん登録集計報告書について（がん登録部会・沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター）

仲本がん登録部会副会長から、別冊資料に基づき、当協議会での意見を踏まえ2011年と2012年の報告書を作成した旨の報告があった。また、要望のあった専門医のコメントについては、今回の報告書に含まれてないが今後対応していきたい旨の説明があった。

埴岡委員（18号委員）からは、中間評価とも関連して貴重な情報であることや沖縄県は院内がん登録カバー率低いので高めていただきたいとの要請があった。

天野委員（18号委員）からは、補助療法の情報についてバラつきが大きいと全国紙では指摘されていることから、こういった内容のものに対しては専門医のコメントを加えていく必要がある旨の意見があった。

また、埴岡委員（18号委員）からは、少ない補足データにより懸念を生むことのないよう、多くのデータを拾い上げ精度を高めていって欲しい、各専門医師のデータ検証も行って議論していただきたい旨の意見もあった。

3. 沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センターの活動報告について

増田委員（10号委員）から、資料8に基づき、平成26年度事業報告があった。

4. 沖縄県統括相談支援センターの活動報告について

増田委員（10号委員）から、資料9に基づき、ピアサポートに関する活動報告と今後の更なる啓発活動への取組について説明があった。

また、儀間委員（18号委員）からは、ピアサポートを取材して少しずつ中身が充実していると実感していることから積極的に情報発信していきたい、また、真栄里委員から説明のある離島患者の負担についても同様に発信していきたい旨の発言があった。

5. 沖縄県教育庁「学校におけるがん教育の在り方について（通知）」

6. 文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会（第1回，第2回，第3回）

増田委員（10号委員）から，資料10及び11に基づき，報告があった。

また，普及啓発部会が粘り強く活動している中，ここ3年くらいで国や県など行政も熱心に取り組んできていることの説明があった。なお，厚労省研究班で作成した「がん教育」に関する教材を取り寄せたことから，必要であれば琉大病院がんセンターに問い合わせるようアナウンスがあった。

7. 厚生労働省 各種審議会報告

（1）厚生科学審議会 がん登録部会（第5回）

増田委員（10号委員）から，資料12に基づき，来年から全国がん登録が開始になること及び各種マニュアル案がインターネット上に掲載されているので確認するよう説明があった。また，天野委員（18号委員）及び琉大病院がんセンターの井岡医師からは，これまでの都道府県における地域がん登録の利活用推進について発言があった。

（2）厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会

①予防接種・ワクチン分科会（第5回，第6回）

増田委員から，資料13に基づき，報告があった。

②同分科会 予防接種基本方針部会（第12回）

増田委員から，資料14に基づき，報告があった。

③同分科会 副反応検討部会（第13回，第14回）

増田委員（10号委員）から，資料15に基づき，報告があった。

また，真栄里委員（17号委員）からは，ワクチンによる副反応（被害）であることが判明するのに何年もかかることや判明しても県外の病院でしかフォローができず生活破壊となっている現状について説明があり，予診・問診記録の長期保管化・クリニック等からの情報集積強化・相談窓口の充実について要請があった。このことについては，医師会で勉強会を開催し取り組みを始めている旨の説明があった。

（3）がん対策推進協議会（第47回，第48回）

増田委員（10号委員）から，資料16に基づき，報告があった。

また，天野委員（18号委員）からは，中間評価の取りまとめは，2年後に改定が迫っているがん対策推進計画を意識して進めて欲しい旨の発言があった。

8. 厚生労働省 各種検討会等報告

（1）がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会（第10回）

増田委員（10号委員）から，資料17に基づき，報告があった。

（2）がん検診のあり方に関する検討会（第11回，第12回）

増田委員（10号委員）から，資料18に基づき，報告があった。

（3）緩和ケア推進検討会（第16回）

増田委員（10号委員）から，資料19に基づき，報告があった。

（4）希少がん医療・支援のあり方に関する検討会（第1回，第2回）

増田委員（10号委員）から，資料20に基づき，報告があった。

（5）HTLV-1対策推進協議会（第8回）

増田委員（10号委員）から，資料21に基づき，報告があった。

部会報告事項

1. 緩和ケア部会報告

笹良緩和ケア部会長から、資料22に基づき、報告があった。

2. がん登録部会報告

仲本がん登録部会副会長から、資料23に基づき、報告があった。

3. 研修部会報告

増田委員（喜舎場研修部会長代理）から、資料24に基づき、報告があった。

4. 相談支援部会報告

樋口相談支援部会長から、資料25に基づき、報告があった。

なお、天野委員（18号委員）からは、がんと診断した時に医師から直接「がんサポートハンドブック」を手渡すようこれまで要請していることから、各機関でも周知をお願いしたい旨の発言があった。

5. 地域ネットワーク部会報告

増田委員（佐村地域ネットワーク部会長代理）から、資料26に基づき、報告があった。

6. 普及啓発部会

増田委員（長井普及啓発部会長代理）から、資料27に基づき、「がん検診啓発ポスターコンテスト表彰式」の新聞紙面掲載と宮平乳業牛乳パックへの広告開始について報告があった。また、県教育委員会と協議して、「がん教育」の講師としての医師名簿を作成した旨の報告があった。

7. がん政策部会報告

埴岡がん政策部会長から、資料28に基づき報告があり、部会の年間カレンダー（計画）についてどのように組み立てることが効果的か継続して検討する旨の説明があった。

